



Title	ネパールにおけるHIV 対策の課題：統計データ及び 現地での支援の体験を通じて考えたこと
Author(s)	長谷川, 生実
Citation	平成30年度学部学生による自主研究奨励事業研究成果 報告書. 2019
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/71928
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

平成30年度学部学生による自主研究奨励事業研究成果報告書

ふりがな 氏 名	はせがわ いくみ 長谷川 生実	学部 学科	法学部 国際公共政策	学年	3 年
ふりがな 共 同 研究者氏名		学部 学科		学年	年
					年
					年
アドバイザー教員 氏名	蓮生 郁代	所属	国際公共政策研究科		
研究課題名	ネパールにおける HIV 対策の課題 統計データ及び現地での支援の体験を通じて考えたこと				
研究成果の概要	研究目的、研究計画、研究方法、研究経過、研究成果等について記述すること。必要に応じて用紙を追加してもよい。(先行する研究を引用する場合は、「阪大生のためのアカデミックライティング入門」に従い、盗作剽窃にならないように引用部分を明示し文末に参考文献リストをつけること。)				
<p>【研究目的】</p> <p>HIV への対策としてなにが行われ、その成果はどのようなものであるかをデータから読み取る。しかしその一方で、データからは読み取れない、ケアの質の問題としてはどのようなものがあるのか。それぞれを国際及び国家といった視点とフィールドワークの視点として、その違いを考察し、今後の対策を考える。</p> <p>【研究方法】</p> <p>データを用いた読み取り調査と、実際に HIV の感染者にケアを行なっている施設での現地調査。</p> <p>【研究成果】</p> <p>I 国際的・国家的視点</p>					

1.1 HIV/AIDS の概要¹

AIDS(acquired immunodeficiency syndrome)とは、日本語では後天性免疫不全症候群と訳されるもので、HIV(human immunodeficiency virus)感染によって引き起こされる病気の一つである。適切な治療が施されないと重篤な全身性免疫不全になり、他の感染症を引き起こし、最悪の場合死に至ることもある。近年、治療薬の開発が飛躍的に進んでいるものの、世界中での感染者は 3670 万人で、年間 180 万人の新規感染者と 100 万人の AIDS による死亡者が発生している。

1.1.1 HIV の臨床症状

HIV の主な感染経路は、性的接触・母子感染(経胎盤・経産道・経母乳感染)・血液(輸血・臓器移植・医療事故・麻薬等の静脈注射)がある。

性的接触はそのままの意味であるが、今回訪れたネパールを始め多くの途上国では避妊具をつけない性行為が多く、感染した母親が子供を産むケースが少なくない。そこで問題になってくるのが母子感染である。HIV に感染している母親から生まれてくる子供が HIV に感染している可能性は 30%～40%と言われており、産道や母乳での感染は防ぐことができるが、医療が満足に受けられない地域では防ぐことができていないのが現状である。実際今回訪れた施設は母子感染による子供が多数いた。

1.2 世界的取り組み

ここからは世界的な取り組みについて見ていく。HIV の新規感染者数及び AIDS 関連死者数は、プロテアーゼ阻害薬の実用化や 2000 年以降の取り組みによって減少してきている。HIV に対する 2000 年以降の世界的な取り組みの中心は、やはり SDGs とその先駆けとなった MDGs である。また、2006 年には UNAIDS の事務局長が、90-90-90 と呼ばれる取り組みも行なっている。以下ではそれらが HIV に対してどのような取り組みを行ったのか、そして現在出されている成果はどれほどのものであるのかを見ていく。

1.2.1 MDGs と SDGs

MDGs(ミレニアム開発目標)とは 2000 年から 2015 年までに国際社会が達成すべき 8 つの目標を掲げたものである²。その中で HIV は Target6「HIV/AIDS、マラリア、その他の疾病の蔓延防止」として目標に挙げられており、HIV/AIDS への対策が国際社会において必要事項であることがわかる。

MDGs への取り組みとしては UNDP(国連開発計画)が、各国政府に対してプロジェクト支援を行い、各国における進捗をモニターするなどの活動を行ったのを始め、国家・企業・NGO など様々なアクターが活動に取り組んだ³。

2015 年に挙げられた「ミレニアム開発目標成果報告書」の中で、HIV/AIDS における成果は以下のようになっている⁴。

- ・HIV への新たな感染は 2010 年から 2013 年の間に約 40%低下し、推定 350 万人から 210 万人まで減少した。

- ・2016 年 6 月までに世界中で 1360 万人の HIV 感染者が抗レトロウイルス療法(ART)を受けていたが、これは 2003 年の 80 万人から飛躍的な進歩である。ART によって 1995 年から 2013 年の間で

¹ NIID 国立感染症研究所

² 国連開発計画(UNDP)駐日代表事務所「ミレニアム開発目標」

³ 国連開発計画(UNDP)駐日代表事務所「ミレニアム開発目標」

⁴ 国連広報センター「国連ミレニアム開発目標報告 2015 要約版」

AIDS 関連死は減少し、760 万人が AIDS による死を免れた。

しかし HIV の感染者数は未だ増え続けており、大きな問題であると考えられる。そこで発表されたのが SDGs(持続可能な開発目標)であり、これは MDGs の後継として、2015 年 9 月の国連サミットでされた「持続可能な開発のための 2030 年アジェンダ」にて記載された 2016 年から 2030 年までの国際目標であり、達成すべきゴールは MDGs の 8 つから 17 までに増えている。この中で HIV に関しては、その目標を「すべての人に福祉と健康を」とし、より広い範囲の保健・衛生問題の改善を行うとしている⁵。

1.2.2 90-90-90⁶

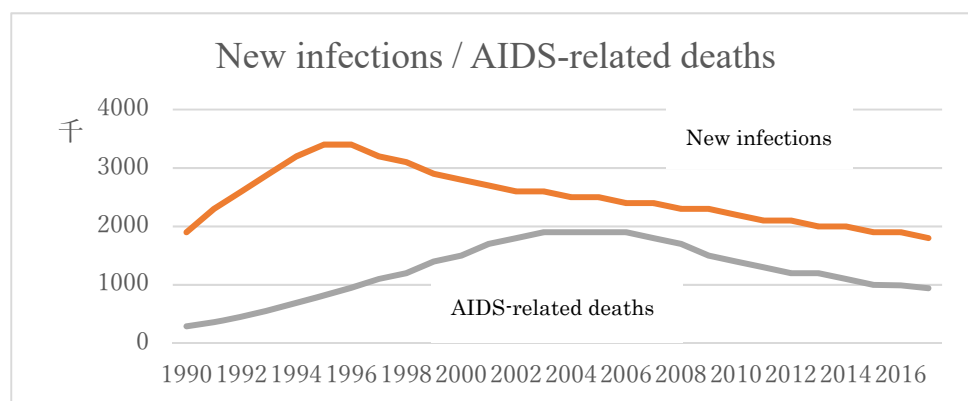
UNAIDS の事務局長が発表した 2016 年から 2020 年までに HIV の流行を制御する戦略であり、以下の 3 つをあげている。

- ・感染者の 90%以上が診断を受け感染を自覚すること
- ・診断を受けた感染者の 90%以上が治療を受けること
- ・治療中の感染者の 90%以上が血中ウイルスを抑制すること

1.2.3 HIV の治療

HIV の薬物治療で今日の標準治療法になっているのが、抗 HIV 薬(antiretroviral drug : ARV)を組み合わせて服用する多剤併用療法(Combination Antiretroviral Therapy : cART)である。1996 年のプロテアーゼ阻害剤の実用化に始まり、現在までに 6 つの阻害剤が実用化されている。ART の進歩は単に薬剤の種類が増えただけでなく、ARV そのものの性能が改良されており、初期に比べて格段に強い抗ウイルス活性、長期の血中半減期そして難薬剤耐性獲得性が実現されており、治療の成功率は飛躍的に向上している。しかしこれらは他人への HIV の感染を予防するもので、感染者自体の完全な治療になるわけではない。

UNAIDS(国連エイズ計画)の発表によると、抗 HIV 治療を受けている HIV 陽性者は、2010 年の 750 万人から 2015 年 12 月の 1700 万人へと大きく増えている。



(図 1 UNAIDS info.より筆者作成)

1.3 ネパール

この章では、今回現地調査として訪れたネパールの HIV/AIDS に対する取り組みを見ていく。

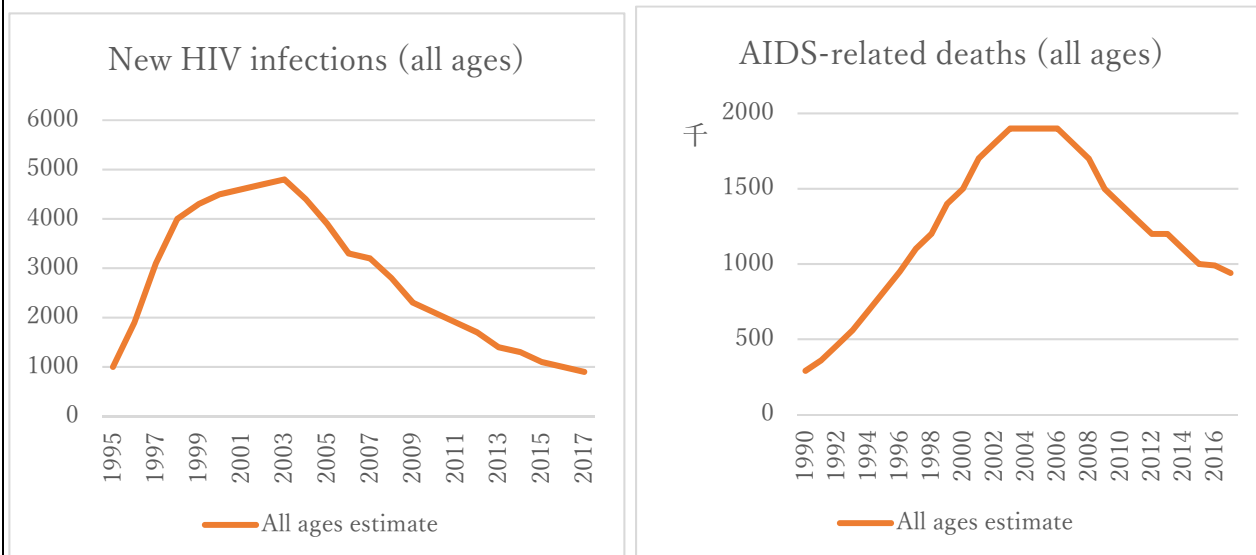
⁵ 国連広報センター 「SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS」

⁶ Japanese Network of People Living with HIV/AIDS 「HIV ケアカスケードと『90-90-90』」

ネパールでの現在の感染者数はおよそ 31000 人であり、2003 年から 2015 年までに行われた国家戦略により現在は下降傾向にある（図 2 参照）。また、現在は 2016 年から 2020 年までの政策を立てて、90-90-90 をベースにした目標を達成しようとしている。

【2003 年からの 2015 年までの政策⁷⁾】

- ・感染の広がり防止
- ・質の高い治療等への普遍的なアクセスを確保すること
- ・法的枠組みを包括的かつ十分に実施し、開発アジェンダとして確立



・リーダーシップとマネジメントの強化

- ・持続可能な資金調達と資金の有効活用の達成

【2016 年から 2020 年までの政策⁸⁾】

- ・主要人口の 90%を調査し、検査する。
- ・HIV 陽性患者の 90%を治療する。
- ・陽性患者の 90%に ART を投与することを維持する。
- ・母子感染を防ぎ、母親の生活をより良いものにする。
- ・先天性梅毒をなくす。
- ・75%の新規感染者をなくす。

（図 2 UNAIDS info.より筆者作成）

以上見てきたように、新規感染者数及び関連死者数は減少してきている。またネパールにおいては感染者数自体も減少してきている。ではそうした現状の中で、感染者におけるケアの面ではどのような問題があるのか。その点について、次で見ていく。

II ローカルな視点

今回現地調査として訪れたのは MSPN-New Life Centre である。この施設は、ネパールの首都カトマンズから車で 1 時間ほどの場所にあり、2006 年に NGO 団体である Friends of Needy Children によつ

⁷ UNAIDS NEPAL 「HIV/AIDS HEALTH PROFILE」

⁸ Country Progress Report NEPAL

て設立されたものであり、感染している子供たちや、彼らの母親たちのケアを無料で行なっている。その資金源は Nepal Youth Foundation 及び Fonds Parvati を中心に、個人からの寄付によって成り立っている。職員は、医療の知識を持った人も合わせて 5 人で、6 歳から 15 歳のおよそ 10 人の男女の子供がいる⁹。

この場所での活動は、8 月 13 日から 8 月 31 日のおよそ 3 週間で、平日の朝 10 時から 15 時までの 5 時間行なった。1 日の活動内容は次のようである。10 時に施設に集合、子供達の朝ごはんの準備から片付けまでの手伝い。その後はプレイングルームで子供たちとボードゲームや日本語や英語などの学習を行うなど自由な時間を過ごす。途中一旦、お茶休憩を挟み 13 時までその活動を続け、13 時から子供達のお昼ご飯の準備等の手伝い。そのあとは掃除や洗濯物を子供たちとした後に、15 時から子供達が昼寝に入るのそこでその日の活動を終える。

その活動の中で発見した課題は以下の 3 つである。

- ・町全体の環境の劣悪さ
- ・施設の環境の劣悪さ
- ・正確な知識の拡大と寛容な社会の発達

2.1. 町全体の環境の劣悪さ

ネパールについてまず驚いたのはその交通量の多さと空気の悪さである。整備されていない道路と車であるため、排気ガスを含めて環境が悪くなっており、実際多くの歩行者がマスクをしていた。これらの問題は多くの途上国で見られるものであるが、免疫力が低下している施設の子供達にとって空気が悪いことは他の病気に繋がることもあり、もしも外で活動することがあれば改善が必要であると考えられる。

2.2 施設の環境の劣悪さ

建物自体は 3 階建の綺麗なところで、毎日清掃も欠かさず行われているが、虫が多く存在していた。原因として考えられるのは食べ物をそのまま戸棚などにしまっていることが考えられ、キッチンがある 1 階建だけでなく、3 階にまで虫は多く存在していた。病気を媒介する虫もいるために、ここも改善していく必要があると考えられる。

2.3 正確な知識の拡大と寛容な社会の発達

今回の施設訪問で写真を撮る時、SNS 等で決して外部には出さないようにと注意を受けたことからわかるように、HIV/AIDS を完全に治すことはできないために、偏見的な目で見られることが多くある。また合併症の危険からなかなか外に出ることもできないため、限られたことしか子供達は行うことができない。そこで感じたことは、このような境遇に立たされている子達に必要なのは、周りの環境の改善と、彼らを受け入れる寛容な社会の発達とそうした人々との交流なのではないかということである。HIV/AIDS の正しい知識を感染者自身ももちろんであるが、社会全体が身につけ、彼らを受け入れ交流を活発化させることで、彼らは多くのことを学ぶことができると考えられる。また、そうした交流の中で彼らが外に出られるためにも、2.1 でも述べたように都市の環境の改善が必要である。

⁹ MSPN Nepal HP

Ⅲ まとめ

今回の研究の目的であったマクロな視点とミクロな視点を以下のようにまとめる。

「マクロな視点」

データから読み取れるものとして、国際社会においてはその対策から新規感染者数と関連死者数は減少してきている。しかしその一方でおよそ 3700 万人の感染者がおりケアが必要であることがわかる。またネパールにおいては大規模な戦略のもと新規感染者数と関連死者数の減少とともに全体の感染者数も減少している。

「ミクロ視点」

ネパールにおいて感染者数が減少している中で感染者に対するケアには、施設及び都市全体の環境の改善が必要である。また HIV/AIDS に関する正しい知識を拡大させ、社会全体が HIV/AIDS に関して寛容になり交流を活発化させる必要がある。

参考文献

- ・ NIID 国立感染症研究所「AIDS(後天性免疫不全症候群)とは」
(<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/400-aids-intro.html>) 2018/11/5 閲覧
- ・ 国連開発計画(UNDP)駐日代表事務所「ミレニアム開発目標」
(<http://www.jp.undp.org/content/tokyo/ja/home/sdg/mdgoverview/mdgs.html>) 2018/11/5 閲覧
- ・ Project Abroad HP (<https://www.projects-abroad.jp>) 2018/11/11 閲覧
- ・ 国連広報センター「SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS」
(http://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_development/2030agenda/)
2018/11/12 閲覧
- ・ UNAIDS info. (<http://aidsinfo.unaids.org>) 2018/11/5 閲覧
- ・ MSPN Nepal HP (<https://mspnepal.wordpress.com>) 2018/11/11 閲覧
- ・ UNAIDS NEPAL 「HIV/AIDS HEALTH PROFILE」
(https://web.archive.org/web/20080817052540/http://www.usaid.gov/our_work/global_health/aids/Countries/ane/nepal_profile.pdf) 2018/11/13 閲覧
- ・ Government of Nepal Ministry of Health National Centre for AIDS and STD Control
「Country Progress Report NEPAL “To Contribute to Global AIDS Monitoring Report 2017”」
(http://www.unaids.org/sites/default/files/country/documents/NPL_2018_countryreport.pdf) 2018/11/13 閲覧
- ・ 国連広報センター「国連ミレニアム開発目標報告 2015 要約版」
(http://www.unic.or.jp/files/14975_3.pdf) 2018/11/13 閲覧
- ・ Japanese Network of People Living with HIV/AIDS 「HIV ケアカスケードと『90-90-90』」
(<https://www.janplus.jp/topic/417>) 2018/11/13 閲覧